

(証券コード 3928)  
(発送日) 2026年3月11日  
(電子提供措置の開始日) 2026年3月4日

株 主 各 位

東京都港区北青山二丁目11番3号  
A P L A C E 青 山  
株 式 会 社 マ イ ネ ッ ト  
代表取締役社長 岩 城 農

## 第20期定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第20期定時株主総会を下記の通り開催いたしますので、ご通知申し上げます。

本株主総会の招集に際しては、株主総会参考書類等の内容である情報（電子提供措置事項）について電子提供措置をとっており、インターネット上の以下の各ウェブサイトに掲載しておりますので、いずれかのウェブサイトにアクセスの上、ご確認くださいませようお願い申し上げます。

<p>【当社ウェブサイト】 <a href="https://mynet.co.jp/ir/news">https://mynet.co.jp/ir/news</a> (上記ウェブサイトへアクセスいただき、「第20期定時株主総会招集ご通知」をご確認ください。)</p>	
<p>【株主総会資料 掲載ウェブサイト】 <a href="https://d.sokai.jp/3928/teiji/">https://d.sokai.jp/3928/teiji/</a></p>	
<p>【東京証券取引所ウェブサイト（東証上場会社情報サービス）】 <a href="https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show&gt;Show">https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show&gt;Show</a> (上記の東証ウェブサイトへアクセスいただき、「銘柄名（会社名）」に「マイネット」又は「コード」に「3928」を入力・検索し、「基本情報」「縦覧書類/PR情報」を順に選択して、「縦覧書類」にある「株主総会招集通知/株主総会資料」欄よりご確認ください。)</p>	

なお、当日ご出席されない場合は、インターネット等又は書面により議決権を行使することができますので、お手数ながら株主総会参考書類をご検討くださいませ、2026年3月25日（水曜日）午後7時までに議決権を行使くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

## 記

1. 日 時 2026年3月26日（木曜日）午前11時  
2. 場 所 東京都新宿区霞ヶ丘町4-1  
日本青年館ホテル 8階

### 3. 会議の目的事項

- 報告事項 1. 第20期（自2025年1月1日 至2025年12月31日）事業報告及び連結計算書類の内容並びに会計監査人及び監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件  
2. 第20期（自2025年1月1日 至2025年12月31日）計算書類の内容報告の件

### 決議事項

- 第1号議案 定款一部変更の件  
第2号議案 資本金及び資本準備金の額の減少の件  
第3号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く。）2名選任の件  
第4号議案 監査等委員である取締役2名選任の件  
第5号議案 会計監査人選任の件

### 4. 議決権の行使についてのご案内

#### （1）インターネット等による議決権行使の場合

インターネット等により議決権を行使される場合には、後述の「インターネット等による議決権行使のご案内」をご高覧の上、2026年3月25日（水曜日）午後7時までに行使ください。なお、インターネット等により複数回、議決権を行使された場合は、最後に行われた議決権行使を有効なものとしてお取り扱いいたします。

#### （2）書面による議決権行使の場合

本招集ご通知とあわせてお送りする議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、2026年3月25日（水曜日）午後7時までに到着するようご返送ください。議案に対する賛否の表示がない場合は、賛成の表示があったものとしてお取り扱いいたします。

#### （3）インターネット等及び書面による重複した議決権行使の場合

インターネット等と書面により重複して議決権を行使された場合は、到着日時を問わず、インターネット等による議決権行使を有効なものとしてお取り扱いいたします。

以 上

~~~~~  
当日ご出席の際は、お手数ですが議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

電子提供措置事項のうち、「連結株主資本等変動計算書」、「連結計算書類の連結注記表」、「株主資本等変動計算書」及び「計算書類の個別注記表」につきましては、法令及び当社定款第17条の規定に基づき、書面交付請求をいただいた株主様に対して交付する書面（電子提供措置事項記載書面）への記載を省略しております。したがって、書面交付請求をいただいた株主様に対して交付する書面は、監査報告を作成するに際し、監査等委員会及び会計監査人が監査をし

た書類の一部であります。

なお、電子提供措置事項に修正が生じた場合は、修正した旨、修正前の事項及び修正後の事項を、上記インターネット上の各ウェブサイトに掲載させていただきます。



# インターネット等による議決権行使のご案内

行使  
期限

2026年3月25日（水曜日）  
午後7時入力完了分まで

## QRコードを読み取る方法「スマート行使」

議決権行使コード及びパスワードを入力することなく議決権行使ウェブサイトへログインすることができます。

- 1 議決権行使書用紙右下に記載のQRコードを読み取ってください。

※「QRコード」は株式会社デンソーウェブの登録商標です。

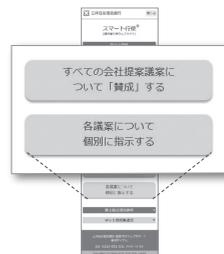


- 2 以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください。

**「スマート行使」での議決権行使は1回に限り可能です。**

議決権行使後に行使内容を変更する場合は、お手数ですがPC向けサイトへアクセスし、議決権行使書用紙に記載の「議決権行使コード」・「パスワード」を入力してログイン、再度議決権行使をお願いいたします。

※QRコードを再度読み取っていただくと、PC向けサイトへ遷移できます。



# 議決権行使コード・パスワードを入力する方法

議決権行使  
ウェブサイト

<https://www.web54.net>

- 1 議決権行使ウェブサイトへアクセスしてください。



「次へすすむ」を  
クリック

- 2 議決権行使書用紙に記載された「議決権行使コード」をご入力ください。



「議決権行使コード」  
を入力

「ログイン」を  
クリック

- 3 議決権行使書用紙に記載された「パスワード」をご入力ください。



「パスワード」  
を入力

実際にご使用になる  
新しいパスワードを  
設定してください

- 4 以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください。

「登録」をクリック

※操作画面はイメージです。

インターネットによる議決権行使でパソコンやスマートフォン、携帯電話の操作方法などが不明な場合は、右記にお問い合わせください。

三井住友信託銀行 証券代行ウェブサポート 専用ダイヤル  
電話番号：0120-652-031（フリーダイヤル）  
（受付時間 9:00～21:00）

機関投資家の皆様は、株式会社ICJの運営する機関投資家向け議決権電子行使プラットフォームをご利用いただくことが可能です。

その他のご照会は、以下の問い合わせ先をお願いいたします。

ア. 証券会社に口座をお持ちの株主様

お取引の証券会社へお問い合わせください。

イ. 証券会社に口座のない株主様（特別口座の株主様）

三井住友信託銀行 証券代行部

[電話] 0120 (782) 031（受付時間 9:00～17:00 土日休日を除く）

# 事業報告

第20期 （自 2025年1月1日）  
（至 2025年12月31日）

## 1. 企業集団の現況に関する事項

### (1) 事業の経過及びその成果

当社グループの事業領域である国内ゲームコンテンツ市場は約2.3兆円の規模まで成長し、その中でもモバイルゲームの市場規模は前年比3.2%増の1.7兆円となるなど、国内ゲームコンテンツ市場において中心的な存在となっております（ファミ通ゲーム白書2025より）。

当社グループは、売上成長構造を再構築・再強化することで企業としての成長性を向上するべく、ゲーム事業内の新領域や新規事業の拡大に力を入れております。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は7,478,296千円（前期比15.5%減）、営業利益は374,476千円（前期比12.6%減）、経常利益は308,091千円（前期比17.9%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は228,133千円（前期比7.1%減）となりました。

事業別の状況は次のとおりであります。

ゲーム事業セグメントにはゲーム事業の「セカンダリー領域」「新領域」と、新規事業の「スポーツDX領域」が含まれます。

当連結会計年度の「セカンダリー領域」においては、既存タイトルの長期的かつ安定的な運営に注力した結果、好調に推移しました。

また、新たな収益の柱として育成中の「新領域」においては、当社が培ってきたタイトル運営や企画・開発の専門ノウハウを活かし、パートナー企業のタイトル運営チームヘデザイナー、クリエイター等の専門性の高い人材を派遣・支援するサービスを展開しております。当連結会計年度においても、顧客企業のニーズを的確に捉えた支援実績が着実に積み上がり、順調に事業規模を拡大しました。

新規事業の「スポーツDX領域」においては、「りそなグループ B.LEAGUE 2024-25シーズン」の開幕に合わせ、Bリーグ公認ファンタジースポーツゲーム『B.LEAGUE#LIVE』の2024-25シーズン版をリリースしました。サービス開始から4シーズン目を迎え、ファンコミュニティの活性化に寄与しております。

また、公益社団法人 日本プロサッカーリーグ（本社：東京都千代田

区、チェアマン：野々村 芳和、以下「Jリーグ」）とのサポーティングカンパニー契約に基づき、Jリーグ公式のトレーディングカード×ファンタジーゲーム『J. LEAGUE FANTASY CARD』の開発・運営を推進しました。正式リリースに向け、さらなるサービス向上を目指したクローズドベータテストの実施やメディア向け説明会の開催、カード一覧サイトおよびPVの公開など、サービスの品質の向上と認知拡大に向けた先行投資を積極的に実施しました。

以上の結果、ゲーム事業セグメントの売上高は6,849,367千円（前期比18.5%減）、営業利益は317,667千円（前期比8.2%減）となりました。

異業種事業セグメントには新規事業の「BtoBソリューション（異業種領域）」が含まれます。

当連結会計年度においては、顧客への提供価値向上と事業基盤の強化を目的に、サービスラインナップの拡充を図りました。主力の戦略コンサルティング事業に加え、キッティングBPO（ビジネス・プロセス・アウトソーシング）サービスの提供を開始しました。これにより、経営課題の解決に向けた戦略策定から、実行フェーズで必要となるPC等の機材やソフトウェアの導入・設定、納品までをワンストップで支援する体制を構築しました。この事業領域の拡大により、多様化する顧客ニーズに的確に取り込むとともに、新たな収益の柱の構築を着実に進めてまいります。

以上の結果、異業種事業セグメントの売上高は690,884千円（前期比41.3%増）、営業利益は56,809千円（前期比31.1%減）となりました。

(2) 設備投資の状況

該当事項はありません。

(3) 資金調達等の状況

安定した資金を確保するため、金融機関から合計で7億8千万円の資金調達を行いました。

(4) 重要な組織再編等の状況

該当事項はありません。

(5) 対処すべき課題

当社グループが対処すべき主な課題は以下のとおりであります。

① ゲーム事業における展開

スマートフォンゲームメーカーは相対的に成功確度が高いIPタイトル（人気キャラクター関連タイトル）の開発に注力しており、マルチプラットフォームや海外市場における展開等、タイトルごとの売上や費用に加えて、運営チームの規模も大きくなる傾向にあります。ゲームタイトルが大型化したことで、仕入先であるゲームメーカーにとって、一つ一つのゲームタイトルの会社業績に与える影響が大きくなり、売却に慎重になる傾向や、継続した売上計上を希望する傾向が見受けられます。

当社グループはこうした環境変化や顧客ニーズに対応し、プロフィットシェア等の柔軟なスキームを整備し、国内のみならず海外展開版も同時に運営を担うことのできる体制を整える等、獲得戦略を洗練させております。大型かつ展開が多様化したタイトルを獲得・運営できるプレイヤーは非常に限られるため、多様な契約形態を取り揃えることで当社グループの新たな競争力となり、今後のゲーム事業の再成長への礎となっております。

また、これまで主要スキームとしておりましたセカンダリー領域に加え、今後更なる売上の成長を目指し、新領域への事業拡大を図り、ターゲット市場を拡張しております。

## ② 新領域や新規事業における展開

当社グループは、売上成長構造を再構築・再強化することで企業としての成長性を向上するべく、ゲーム事業内の新領域や新規事業の拡大に力を入れております。一方で、新領域や新規事業の立ち上げ期においては、市場環境の変化や競争激化等により、事業の進捗が当初計画から乖離する不確実性が内在しております。当社グループでは、各事業の進捗状況や市場動向を慎重に見極め、事業フェーズに応じた適切な投資判断を行うことでリスクをコントロールしつつ、将来の収益の柱となる事業の創出に努めてまいります。

## ③ システム技術・インフラの強化

当社グループでは、ゲーム及び各種サービスをスマートフォン等の端末を通じてインターネット上で提供していることから、システムの安定的な稼働及び技術革新への対応が重要な課題と考えております。これに対して、当社グループではサーバー等のシステムインフラを安定的に稼働させるべく、継続的なインフラ基盤の強化及び専門的な人員の確保に努めるとともに、技術革新にも迅速に対応できる体制構築に努めております。

## ④ 優秀な人材の確保と育成

当社グループが継続的に企業価値を向上していくためには、高い専門性を有する優秀な人材の確保及び将来を担う人材の育成が経営上の重要な課題であると認識しております。そのため、職場環境の改善、福利厚生の実践及び採用活動の多様化に努めるとともに、企業認知度の向上に取り組み、人材の確保に力を入れております。

一方で、採用においては優れた能力のみならず、当社グループの理念と企業文化を共有できる人材の選考を心がけており、社員同士が協力し合いながら生き生きと働ける組織作りを大切にしております。

また、社内研修・教育制度を強化し、組織の枠を超えた積極的な交流を図り、知見とノウハウを可視化・伝播することで企業と共に成長していく人材育成システムの構築を目指してまいります。

⑤ 内部管理体制の強化

当社グループが今後更なる業容拡大を図るためには、内部管理体制やコンプライアンスの実効性を高めながら各種業務の標準化と効率化の徹底を図ることにより、事業基盤を確立させていかなければならないと認識しております。そのために当社グループでは、経営幹部の確認体制のもと、全社に業務フローやコンプライアンス遵守を周知徹底させると同時に、日々改善を行うことで業務の効率化を図ってまいります。また、新規事業分野に潜在する各種リスクも勘案して、内部管理体制及びコンプライアンス体制の充実と強化を図ってまいります。

当社グループの企業価値の最大化を図るべく、役職員一同、総力を結集してまいり所存でございますので、株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(6) 財産及び損益の状況の推移

(単位：千円)

| 区 分                                             | 第17期<br>2022年<br>12月期 | 第18期<br>2023年<br>12月期 | 第19期<br>2024年<br>12月期 | 第20期<br>2025年<br>12月期 |
|-------------------------------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 売 上 高                                           | 10,542,863            | 8,717,982             | 8,846,312             | 7,478,296             |
| 経常利益又は経常損失<br>(△)                               | △419,685              | 125,360               | 375,037               | 308,091               |
| 親会社株主に帰属<br>する当期純利益又は<br>親会社株主に帰属する<br>当期純損失(△) | △1,633,077            | 143,278               | 245,634               | 228,133               |
| 1株当たり当期<br>純利益又は1株当たり当<br>期純損失(△)(円)            | △191.28               | 17.00                 | 29.10                 | 26.80                 |
| 総 資 産                                           | 4,360,027             | 3,743,309             | 4,840,352             | 4,688,878             |
| 純 資 産                                           | 995,857               | 1,254,089             | 1,517,320             | 1,521,161             |

## (7) 重要な親会社及び子会社の状況

### ① 親会社の状況

該当事項はありません。

### ② 重要な子会社の状況（2025年12月31日現在）

| 名 称                      | 出資比率（%） | 主要な事業内容              |
|--------------------------|---------|----------------------|
| 株式会社マイネットゲームス            | 100.0   | ゲーム事業                |
| 株式会社 mynet.ai            | 100.0   | データ分析<br>AI活用サービス事業  |
| 株式会社パレットソリューションズ         | 100.0   | ソリューション事業            |
| 株式会社 PARADE              | 100.0   | ゲーム事業                |
| 株式会社GAMEDAY Interactive  | 100.0   | ゲーム事業<br>スポーツDX事業    |
| D i g o n 株 式 会 社        | 100.0   | コンサルティング事業<br>人材派遣事業 |
| ディゴン・コンサルティング<br>株 式 会 社 | 100.0   | コンサルティング事業           |

### ③ 事業年度末日における特定完全子会社に関する事項

| 名 称                  | 住 所                  | 帳簿価額の合計額 | 当社の総資産額  |
|----------------------|----------------------|----------|----------|
| 株式会社マイネット<br>ゲ ー ム ス | 東京都港区北青山二<br>丁目11番3号 | 2,179百万円 | 5,070百万円 |

## (8) 主要な事業内容（2025年12月31日現在）

| セグメント区分   | 事 業 内 容                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ゲ ー ム 事 業 | 当セグメントにはゲーム事業の「セカンドリー領域」「新領域」と、新規事業の「スポーツDX領域」が含まれます。<br>ゲームメーカーが開発したスマートフォンゲームを仕入れて長期運営を行う「セカンドリー領域」に加え、人材派遣や受託開発といった「新領域」を拡大し、収益源の多角化が進行しています。<br>新規事業の「スポーツDX領域」では公益社団法人 日本プロサッカーリーグ（本社：東京都千代田区、チェアマン：野々村 芳和、以下「Jリーグ」）とのサポーティングカンパニー契約に基づく、Jリーグ公式のトレーディングカード×ファンタジーゲーム『J.LEAGUE FANTASY CARD』等を提供しています。 |
| 異 業 種 事 業 | 新規事業の「BtoBソリューション（異業種）領域」が含まれます。ゲーム業界外（異業種）のクライアントに対してコンサルティングや人材派遣を提供しています。                                                                                                                                                                                                                               |

(9) 主要な営業所（2025年12月31日現在）

| 名 称 | 所 在 地     |
|-----|-----------|
| 本 社 | 東 京 都 港 区 |

(10) 使用人の状況（2025年12月31日現在）

① 企業集団の使用人の状況 262（9）名（前期比2名増（1名減））

| セグメントの名称 | 使用人数    |
|----------|---------|
| ゲーム事業    | 161（3）名 |
| 異業種事業    | 29（1）名  |
| 全社（共通）   | 72（5）名  |
| 合計       | 262（9）名 |

(注) 1. 使用人数は就業人員（正社員のほか当社グループからグループ外の出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。）であり、契約社員及び臨時雇用者数（アルバイト、パートタイマーを含み、人材会社からの派遣社員を除く。）は、最近1年間の平均人員を（ ）外数で記載しております。

2. 全社（共通）は、コーポレート本部やゲーム事業の共通部門等の従業員数が構成要素となっております。

② 当社の使用人の状況

| 使用人数    | 前期末比増減   | 平均年齢  | 平均勤続年数 |
|---------|----------|-------|--------|
| 227（8）名 | 7名減（1名減） | 38.7歳 | 6.9年   |

| セグメントの名称 | 使用人数    |
|----------|---------|
| ゲーム事業    | 156（3）名 |
| 異業種事業    | 0（0）名   |
| 全社（共通）   | 71（5）名  |
| 合計       | 227（8）名 |

(注) 1. 使用人数は就業人員（正社員のほか当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。）であり、契約社員及び臨時雇用者数（アルバイト、パートタイマーを含み、人材会社からの派遣社員を除く。）は、最近1年間の平均人員を（ ）外数で記載しております。

2. 全社（共通）は、コーポレート本部やゲーム事業の共通部門等の従業員数が構成要素となっております。

(11) 主要な借入先の状況 (2025年12月31日現在)

|            |           |
|------------|-----------|
| シンジケートローン  | 750,000千円 |
| 株式会社りそな銀行  | 300,000千円 |
| 株式会社三井住友銀行 | 241,668千円 |
| 株式会社きらぼし銀行 | 141,850千円 |
| 株式会社千葉銀行   | 33,600千円  |

- (注) 1. シンジケートローンは、株式会社三井住友銀行を主幹事とする計4社からの  
協調融資によるものであります。
2. 上記借入金残高のほか、下記社債の当期末残高があります。  
株式会社りそな銀行保証付及び適格機関投資家限定の無担保社債  
680,000千円

(12) その他企業集団の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

## 2. 会社の株式に関する事項 (2025年12月31日現在)

- (1) 発行可能株式総数 20,000,000株  
 (2) 発行済株式の総数 8,710,334株 (うち自己株式157,973株)  
 (3) 株主数 4,876名  
 (4) 大株主

| 株 主 名                              | 持 株 数     | 持 株 比 率 |
|------------------------------------|-----------|---------|
|                                    | 株         | %       |
| 上 原 仁                              | 1,242,770 | 14.53   |
| 株 式 会 社 S B I 証 券                  | 429,628   | 5.02    |
| 楽 天 証 券 株 式 会 社                    | 423,900   | 4.95    |
| 西 村 裕 二                            | 234,600   | 2.74    |
| 株 式 会 社 セ ガ                        | 219,800   | 2.57    |
| 笠 原 健 治                            | 208,000   | 2.43    |
| 三 菱 U F J e ス マ ー ト<br>証 券 株 式 会 社 | 138,100   | 1.61    |
| 山 下 良 久                            | 115,000   | 1.34    |
| 中 辻 哲 朗                            | 105,000   | 1.22    |
| 藪 谷 直 樹                            | 102,900   | 1.20    |

(注) 1. 当社は、自己株式を157,973株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

(5) 当事業年度中に職務執行の対価として会社役員に交付した株式の状況

|                          | 持株数      | 交付対象者数 |
|--------------------------|----------|--------|
| 取締役<br>(社外取締役と監査等委員を除く。) | 100,000株 | 2名     |
| 社外取締役<br>(監査等委員を除く。)     | —        | —      |
| 監査等委員である取締役              | —        | —      |

(注) 当社の株式報酬の内容につきましては、事業報告の「4. 会社役員に関する事項 (5) 取締役の報酬等の額」に記載しております。

(6) その他株式に関する重要な事項

該当事項はありません。

### 3. 会社の新株予約権等に関する事項

- (1) 当事業年度の末日に当社役員が有する職務執行の対価として交付された新株予約権等の内容の概要  
該当事項はありません。
- (2) 当事業年度中に当社使用人等に職務執行の対価として交付した新株予約権等の内容の概要  
該当事項はありません。
- (3) その他新株予約権等に関する重要な事項  
該当事項はありません。

#### 4. 会社役員に関する事項

##### (1) 取締役の氏名等

(2025年12月31日現在)

| 氏名    | 地位及び担当              | 重要な兼職の状況                                                                                                  |
|-------|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 岩城 農  | 代表取締役社長             | 株式会社マイネットゲームス 代表取締役社長<br>株式会社GAMEDAY Interactive 代表取締役社長<br>Digon株式会社 代表取締役社長<br>一般財団法人スポーツエコシステム推進協議会 理事 |
| 西村 拓也 | 取締役副社長<br>コーポレート本部長 | 株式会社mynet.ai 代表取締役社長<br>株式会社バレットソリューションズ 代表取締役社長                                                          |
| 和田 洋一 | 取締役監査等委員            | ワンダープラネット株式会社 社外取締役<br>株式会社オープンアップグループ 社外取締役<br>カバー株式会社 社外取締役<br>株式会社クラシコム 社外取締役                          |
| 太田 雄貴 | 取締役監査等委員            | 株式会社イトクロ 社外取締役<br>国際オリンピック委員会選手委員                                                                         |
| 栗原 正和 | 取締役監査等委員            | —                                                                                                         |

- (注) 1. 取締役監査等委員 和田 洋一氏、太田 雄貴氏及び栗原 正和氏は、社外取締役であり、また、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
2. 取締役監査等委員 和田 洋一氏は、経営に関する豊富な経験やゲーム業界における卓越した見識を有しております。
3. 取締役監査等委員 太田 雄貴氏は、アスリートとしての活躍をはじめ、組織運営及び社会活動から得られた豊富な経験と幅広い見識を有しております。
4. 取締役監査等委員 栗原 正和氏は、経営に関する豊富な経験やエンターテインメント業界における卓越した見識を有しております。
5. 当社の監査につきましては、監査等委員会の職務の執行を補助する内部監査室を設置しており、監査等委員会の年間監査計画に基づき、内部監査室所属の内部監査人が当社の各部門を実査してその内容を監査等委員会に報告する体制となっております。必要とあれば、監査等委員会が決定した監査要領に従って、選定した監査等委員が内部監査室と協働して実査を行います。このような監査体制のもと、毎月1回監査等委員会を開催、実査していることから、当社では常勤の監査等委員を選定しておりません。
6. 当事業年度中における取締役の地位及び担当等の異動はありません。

## (2) 責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役は、職務の執行にあたり期待される役割を十分に発揮することを目的として、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令の定める額としております。

なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役が責任の原因となった職務の遂行について善意かつ重大な過失がないときに限られます。

## (3) 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しております。当該保険契約の被保険者の範囲は当社及び子会社の取締役、監査役、執行役、執行役員、管理・監督の立場にある従業員であり、被保険者は保険料を負担していません。当該保険契約により、株主や第三者等から損害賠償請求を提訴された場合において、被保険者が負担することになる損害賠償金や訴訟費用等の損害が填補されることとなります。

#### (4) 役員報酬等の額又はその算定方法の決定に関する内容及び決定方法

当社の役員報酬については、株主総会決議により取締役（監査等委員を除く。）及び監査等委員である取締役それぞれの報酬等の限度額を決定しており、報酬等の決定方針については取締役会の決議により決定しております。報酬額は、取締役（監査等委員を除く。）については取締役会の決議により決定し、監査等委員である取締役については監査等委員の協議にて決定しております。

また、取締役会は、当事業年度に係る取締役（監査等委員を除く。）の個人別の報酬等について、決定方法及び決定された内容が取締役会で決議された決定方針と整合していることを確認しており、当該決定方針に沿うものであると判断しております。取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針の内容は下記のとおりであります。

##### ① 基本方針

当社の取締役の報酬は、企業価値の持続的な向上を図るインセンティブとして十分に機能するよう株主利益と連動した報酬体系とし、個々の取締役の報酬の決定に際しては各職責を踏まえた適正な水準とすることを基本方針としております。

##### ② 報酬の構成

当社の役員報酬は取締役（監査等委員を除く。）については、固定報酬と業績連動報酬及び非金銭報酬（譲渡制限付株式）で構成しており、各取締役の職責・貢献度合いに加えて、当社グループ全体の連結業績等を総合的に勘案して金額を決定しております。社外取締役及び監査等委員である取締役については、独立性の確保の観点から、固定報酬としております。

なお、2016年3月23日開催の第10期定時株主総会において、取締役（監査等委員を除く。）の報酬を年額300,000千円以内、監査等委員である取締役の報酬を年額50,000千円以内と決議しております。また、2021年3月25日開催の第15期定時株主総会において、取締役（監査等委員を除く。）に対する譲渡制限付株式に関する報酬として支給する金銭報酬額は、年額200,000千円以内と決議しております。

##### ③ 業績連動報酬と業績連動報酬以外の支給割合の決定に関する方針

当社と同程度の事業規模や関連する業種・業態に属する企業をベンチマークとする報酬水準を踏まえ、一律の構成とし、取締役会において取締役の個人別の報酬等の内容を決定しております。

##### ④ 業績連動報酬に係る指標、当該指標を選択した理由及び当該業績連動報

## 酬の決定方法

当社では、業績連動報酬に係る指標として連結営業利益を用いており、当該指標を選択した理由は、持続的成長を追求する上で主となる事業の収益力が重要であると判断しているためであります。なお、業績連動報酬については、連結営業利益目標に対する達成度により決定しております。

### ⑤ 非金銭報酬の内容

当社は取締役（監査等委員を除く。）に当社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えるとともに、株主の皆様と価値共有を進めることを目的として、譲渡制限付株式を付与する非金銭報酬を設けております。

⑥ 役員の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する役職ごとの方針  
役職ごとの方針の定めはありません。

### ⑦ 当事業年度における当該業績連動報酬に係る指標の目標及び実績

当事業年度における業績連動報酬に係る指標の連結営業利益目標は100,000千円、実績は374,476千円であります。

### ⑧ 役員の報酬等の額の決定過程における取締役会の活動内容

当社は取締役の報酬の額の決定にあたっての手續として、報酬体系等を役員、職責に応じて他社水準、当社の業績、従業員給与の水準等を考慮し常勤取締役で検討の上、具体的な報酬支給額については、コーポレート担当役員が各人別の報酬案を立案の上、取締役会に起案し、取締役会にて協議の上、決定しております。

(5) 取締役の報酬等の額

| 区 分                         | 員 数<br>(名) | 総 額<br>(千 円)  | 報 酬 等 の 種 類 別 総 額<br>(千円) |          |               |
|-----------------------------|------------|---------------|---------------------------|----------|---------------|
|                             |            |               | 固 定                       | 業 績 連 動  | 非 金 銭         |
| 取締役(監査等委員を除く。)<br>(うち社外取締役) | 2<br>(一)   | 82,000<br>(一) | 60,000<br>(一)             | —<br>(一) | 22,000<br>(一) |
| 取締役(監査等委員)<br>(うち社外取締役)     | 3<br>(3)   | 18,000<br>(3) | 18,000<br>(3)             | —<br>(一) | —<br>(一)      |
| 合 計                         | 5          | 100,000       | 78,000                    | —        | 22,000        |

- (注) 1. 当事業年度末日現在の会社役員の数、取締役(監査等委員を除く。)2名及び取締役(監査等委員)3名(うち社外取締役3名)であります。
2. 取締役(監査等委員を除く。)の報酬限度額は、2016年3月23日開催の第10期定時株主総会において、年額300,000千円以内と決議いただいております。当該株主総会終結時点の取締役(監査等委員を除く。)の員数は4名(うち社外取締役1名)であります。
3. 取締役(監査等委員)の報酬限度額は、2016年3月23日開催の第10期定時株主総会において、年額50,000千円以内と決議いただいております。当該株主総会終結時点の取締役(監査等委員)の員数は3名(うち社外取締役3名)であります。
4. 取締役(監査等委員を除く。)に対する譲渡制限付株式報酬の付与のための金銭報酬債権の総額は、2021年3月25日開催の第15期定時株主総会において、年100,000株以内とし、年額200,000千円以内と決議いただいております。当該株主総会終結時点の取締役(監査等委員を除く。)の員数は5名(うち社外取締役1名)であります。

## (6) 社外役員に関する事項

### ① 他の法人等の重要な兼職状況と当社と当該他の法人等との関係

| 区 分                | 氏 名     | 兼 職 先                                                    | 兼 職 の 内 容                        |
|--------------------|---------|----------------------------------------------------------|----------------------------------|
| 取 締 役<br>監 査 等 委 員 | 和 田 洋 一 | ワンダーブラネット株式会社<br>株式会社オープンアップグループ<br>カバー株式会社<br>株式会社クラシコム | 社外取締役<br>社外取締役<br>社外取締役<br>社外取締役 |
| 取 締 役<br>監 査 等 委 員 | 太 田 雄 貴 | 株式会社イトクロ<br>国際オリンピック委員会                                  | 社外取締役<br>選手委員                    |
| 取 締 役<br>監 査 等 委 員 | 栗 原 正 和 | —                                                        | —                                |

(注) 当社と兼職先との間には、重要な取引上の関係はありません。

### ② 当事業年度における主な活動状況

#### a 取締役会及び監査等委員会への出席状況

| 区 分                | 氏 名     | 取 締 役 会 |       | 監 査 等 委 員 会 |       |
|--------------------|---------|---------|-------|-------------|-------|
|                    |         | 出 席 回 数 | 出 席 率 | 出 席 回 数     | 出 席 率 |
| 取 締 役<br>監 査 等 委 員 | 和 田 洋 一 | 14回/16回 | 87.5% | 11回/13回     | 84.6% |
| 取 締 役<br>監 査 等 委 員 | 太 田 雄 貴 | 16回/16回 | 100%  | 13回/13回     | 100%  |
| 取 締 役<br>監 査 等 委 員 | 栗 原 正 和 | 16回/16回 | 100%  | 13回/13回     | 100%  |

#### b 取締役会及び監査等委員会における発言状況

監査等委員である取締役和田洋一氏、同太田雄貴氏、及び同栗原正和氏は、主に経営、エンターテイメント及びスポーツの見地から意見を述べるなど、取締役会の意思決定の妥当性、適法性を確保するための助言・提言を行っております。また監査等委員会において、監査の方法その他の監査等委員の職務の執行に関する事項について、適宜必要な発言を行っております。

C 社外取締役が果たすことが期待される役割に対して行った職務の内容

取締役和田洋一氏は、経営に関する豊富な経験やゲーム業界における卓越した見識を用い、当社コーポレート部門に対して有益な助言及び提言を行っております。

取締役太田雄貴氏は、当社スポーツ事業領域の意思決定に係る会議に定期的に参加し、アスリートとしての活躍をはじめ、組織マネジメント、企業経営及び社会活動から得られた豊富な経験と幅広い見識を用い、当該会議において有益な助言及び提言を行っております。

取締役栗原正和氏は、経営に関する豊富な経験やエンターテインメント業界における卓越した見識を用い、関連領域に係る事案において有益な助言及び提言を行っております。

## 5. 会計監査人の状況

### (1) 会計監査人の名称

EY新日本有限責任監査法人

### (2) 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

|                         |          |
|-------------------------|----------|
| 当事業年度に係る会計監査人としての報酬等の額  | 45,260千円 |
| 当社及び当社子会社が会計監査人に支払うべき金銭 | 45,260千円 |
| その他の財産上の利益の合計額          |          |

- (注) 1. 当社と会計監査人との監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬を区分しておらず、実質的にも区分できないため、上記の金額にはこれらの合計額を記載しております。
2. 監査等委員会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、会計監査人の監査計画、従前の事業年度における職務執行状況や報酬見積りの算定根拠等を確認し、審議した結果、会計監査人の報酬等の額につき、会社法第399条第1項の同意を行っております。

### (3) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

監査等委員会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査等委員全員の同意に基づき会計監査人を解任いたします。この場合、監査等委員会が選定した監査等委員は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

## 6. 会社の体制及び方針及び当該体制の運用状況

### (1) 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制 その他業務の適正を確保するための体制

当社は、会社法及び会社法施行規則に定める「業務の適正を確保するための体制」について、その基本方針を取締役会において決議しております。当該基本方針の概要は、下記のとおりであります。

- ① 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
  - a コンプライアンス規程を制定し、法令、定款の内容と共に全社に周知・徹底する。
  - b コンプライアンス推進に関する業務を統括するため、コンプライアンス委員会を設置する。コンプライアンス委員会は、コンプライアンス推進に関する進捗状況を、必要に応じて取締役会等に報告する。
  - c コンプライアンスに関する教育・研修を適宜開催し、コンプライアンス意識の維持・向上を図る。
  - d 内部通報制度を設け、問題の早期発見・未然防止を図るとともに、通報者に対する不利益な扱いを禁止する。
  - e 監査等委員は、取締役会への出席及び業務執行状況の調査等を通じて、公正不偏な立場から、取締役の職務執行を監査する。また、監査等委員は、会社の業務に適法性を欠く又はそのおそれのある事実を発見したときは、その事実を指摘して、これを改めるよう取締役会に勧告し、状況によりその行為の差し止めを請求できる体制を構築する。
  - f 組織全体において、反社会的勢力と一切の関わりを持たず、不当な要求を排除する。また、警察、弁護士等と緊密な連携体制を構築することに努める。
- ② 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
  - a 取締役の職務執行に係る情報については、法令、情報管理規程、文書管理規程等によって保存部署及び保存期限を定め、適切に保存及び管理を行う。
  - b 取締役は、これらの情報を、いつでも閲覧できるものとする。
- ③ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
  - a リスク管理規程を制定し、全社に周知・徹底するとともに、各部門との情報共有を図り、リスクの早期発見と未然防止に努める。なお、当該規程については、危機発生時に適切かつ迅速に対処できるよう、運用状況を踏まえて適宜見直す。
  - b 危機発生時には、対策本部等を設置し、社内外への適切な情報伝達を含め、当該危機に対して適切かつ迅速に対処する。

- ④ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- a 取締役会規程、職務分掌規程、職務権限規程を定め、取締役の職務及び権限、責任の明確化を図る。
  - b 取締役会は、法定事項の決議、経営に関する重要事項の決定及び業務執行の監督等を行うものとし、毎月1回定期的に開催するほか、迅速かつ的確な意思決定を確保するため、必要に応じて臨時取締役会を開催する。
- ⑤ 当社及びその子会社から成る企業集団（以下「当社グループ」という。）における業務の適正を確保するための体制
- a 子会社の取締役、執行役、業務を執行する社員、会社法第598条第1項の職務を行うべき者その他これらの者に相当する者（以下「取締役等」という。）の職務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制
    - (a) コーポレート本部を子会社担当部署とし、子会社管理を行う。
    - (b) 当社取締役会は、当社グループの経営計画を決議し、管理担当役員はその進捗状況を毎月当社取締役会に報告する。
    - (c) 当社の取締役は、当社グループの業務執行状況を監視・監督し、当社の監査等委員会は、当社グループの取締役等の職務執行を監査する。
    - (d) 当社の内部監査担当者は、当社グループの内部監査を実施し、その結果を代表取締役及び監査等委員会に報告する。
  - b 子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制
    - (a) リスク管理規程を制定し、子会社に周知・徹底するとともに、当社との情報共有を図り、リスクの早期発見と未然防止に努める。なお、当該規程については、危機発生時に適切かつ迅速に対処できるよう、運用状況を踏まえて適宜見直す。
    - (b) 危機発生時には、対策本部等を設置し、当社グループ内外への適切な情報伝達を含め、当該危機に対して適切かつ迅速に対処する。
  - c 子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制  
当社は、子会社の経営の自主性及び独立性を尊重しつつ、子会社の取締役等の合理的な業務分掌及び責任の明確化を図るための各種社内規程の整備により、当社グループ経営の適正かつ効率的な運営を推進する。
  - d 子会社の取締役等及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制  
当社は、子会社に、その事業内容や規模等に応じた教育活動や内部通報制度等のコンプライアンス推進体制を構築させ、不正行為等の防止及び早期発見を図る。

- ⑥ 監査等委員会がその職務を補助すべき使用人（以下「補助使用人」という。）を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項、補助使用人の監査等委員以外の取締役からの独立性に関する事項、及び当該補助使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項
- a 監査等委員会が補助使用人を置くことを求めた場合、取締役会は監査等委員会と協議の上これを任命し、補助業務に当たらせる。
  - b 補助使用人は、監査等委員会を補助するための業務に関し、監査等委員以外の取締役及び上長等の指揮・命令は受けないものとし、監査等委員会の指揮・命令にのみ服する。
  - c 補助使用人の人事異動及び考課、並びに補助使用人に対する懲戒処分については、監査等委員会の同意を得るものとする。
- ⑦ 取締役及び使用人が監査等委員会に報告するための体制その他の監査等委員会への報告に関する体制
- a 監査等委員会は、重要な意思決定のプロセスや業務執行状況を把握するため、取締役会のほか重要な会議及び希望する任意の会議に出席し、又は取締役及び使用人から業務執行状況の報告を求めることができ、取締役及び使用人は、これに応じて速やかに報告する。
  - b 取締役及び使用人は、法令に違反する事実、会社に著しい損害を与えるおそれのある事実、その他会社に重大な影響を及ぼすおそれのある事実を発見した場合には、速やかに監査等委員会に報告する。
  - c 取締役及び使用人は、内部監査の実施状況、内部通報制度による通報状況及びそれらの内容を監査等委員会に報告する体制を整備する。
- ⑧ 子会社の取締役等、若しくは会計参与、監査役若しくはこれらの者に相当する者、若しくは使用人又はこれらの者から報告を受けた者が当社監査等委員会に報告をするための体制
- a 子会社の取締役等及び使用人は、当社監査等委員会から業務執行に関する事項について報告を求められたときは、速やかに適切な報告を行う。
  - b 子会社の取締役等及び使用人は、法令違反行為等、当社又は当社の子会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実については、速やかに当社監査等委員会へ報告を行う。

- ⑨ 監査等委員会に報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取り扱いを受けないことを確保するための体制

当社は、監査等委員会への報告を行ったことを理由として、当該報告をした者に対し、解雇を含む懲戒処分その他の不利な取り扱いを行わないよう、当社グループに周知・徹底する。

- ⑩ 監査等委員の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項

監査等委員が、その職務の執行について生ずる費用の前払又は償還等の請求をしたときは、当該監査等委員の職務の執行に必要なと合理的に認められる場合を除き、速やかに当該費用又は債務を処理する。

- ⑪ その他監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- a 監査等委員会は、法令に従い、過半数を社外取締役とし、公正かつ透明性を確保する。
- b 監査等委員会は、代表取締役及び取締役会と定期的に会合を持ち、相互の意思疎通を図る。
- c 監査等委員会は、取締役及び使用人の職務執行に係る情報を必要に応じて閲覧することができ、内容説明を求めることができる。
- d 監査等委員会は、監査法人及び内部監査室と定期的に情報交換を行い、相互の連携を図る。
- e 監査等委員会は、監査業務に必要と判断した場合には、弁護士、公認会計士、その他専門家の意見を聴取することができる。

当事業年度における、当社の業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要は、以下のとおりであります。

- ① 取締役の職務執行

当社は、「取締役会規程」に基づき、原則として月1回の取締役会を開催し、法令又は定款に定められた事項及び経営上の重要な事項の決議を行うとともに、取締役の職務執行の監督を行っております。また、社外取締役が3名在籍しており、取締役会における当社取締役の職務執行の監督機能を強化しております。

なお、当事業年度においては、取締役会を16回開催しております。

## ② コンプライアンス

当社が、社会的信頼を確保し、さらなる発展を遂げるためには、全社的なコンプライアンス体制の強化・推進が必要不可欠であると認識し、「コンプライアンス規程」を制定し、その周知徹底と遵守を図るとともに、四半期に1度、倫理的で誠実な経営活動を推進する「コンプライアンス委員会」を開催することとしております。また、法令違反その他のコンプライアンスに関する社内相談・報告体制として、「内部通報制度運用規程」を定め、内部通報制度を整備しております。

## ③ リスク管理

当社は、リスクの防止及び会社損失の最小化を図るため「リスク管理規程」を制定し、全社的なリスク管理体制の強化を図っております。また、弁護士、公認会計士、税理士、社会保険労務士等の外部専門家の助言を受けられる体制を整えており、リスクの未然防止と早期発見に努めております。また、地震、火災等の災害に対処するため、必要に応じてリスク管理統括責任者が、不測の事態に備えております。

リスク管理体制全般の適切性及び有効性につきましては、当社の内部監査室専任の内部監査担当者が内部監査を通して検証しております。

## ④ 監査等委員会の監査

監査等委員である取締役は、株主総会、取締役会に出席するほか、監査計画に基づき重要書類の閲覧、役職員への質問等の監査手続を通して、経営に対する適正な監視を行っております。また、内部監査室及び会計監査人と緊密な連携をとり、監査の実効性と効率性の向上に努めております。

## (2) 株式会社の支配に関する基本方針

該当事項はありません。

## (3) 剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題の一つとして認識しており、当社の将来の成長に必要な新規事業開発、研究開発、M&Aなどの先行投資による企業価値の向上を目指しながらも、並行して株主還元として、株主資本配当率（DOE）3%を目安に毎期配当を行うことを基本方針としております。しかしながら、経営状況を鑑み、まずは内部留保の充実を図り、既存事業の基盤整備や新たな収益の柱を創出するための投資に充当していくことが最優先であると判断し、期末配当を無配とさせていただきます。

## 連結貸借対照表

(2025年12月31日現在)

(単位：千円)

| 資 産 の 部            |                  | 負 債 の 部            |                  |
|--------------------|------------------|--------------------|------------------|
| 科 目                | 金 額              | 科 目                | 金 額              |
| <b>流 動 資 産</b>     | <b>3,524,195</b> | <b>流 動 負 債</b>     | <b>2,046,215</b> |
| 現金及び預金             | 2,372,984        | 買掛金                | 207,397          |
| 売掛金及び契約資産          | 960,795          | 未払金                | 396,844          |
| 未収入金               | 28,373           | 契約負債               | 88,647           |
| 未収還付法人税等           | 9,423            | 短期借入金              | 33,600           |
| その他                | 182,619          | 賞与引当金              | 85,794           |
| 貸倒引当金              | △30,000          | 1年内返済予定<br>の長期借入金  | 725,392          |
| <b>固 定 資 産</b>     | <b>1,164,683</b> | 1年内償還<br>予定の社債     | 290,000          |
| <b>有 形 固 定 資 産</b> | <b>15,621</b>    | 未払法人税等             | 22,423           |
| 建物及び構築物            | 9,082            | その他                | 196,116          |
| 工具、器具及び備品          | 6,538            | <b>固 定 負 債</b>     | <b>1,121,501</b> |
| <b>無 形 固 定 資 産</b> | <b>688,055</b>   | 長期借入金              | 708,126          |
| のれん                | 97,816           | 社債                 | 390,000          |
| ソフトウェア仮勘定          | 590,175          | 繰延税金負債             | 23,375           |
| その他                | 63               | <b>負 債 合 計</b>     | <b>3,167,717</b> |
| <b>投資その他の資産</b>    | <b>461,006</b>   | <b>純 資 産 の 部</b>   |                  |
| 投資有価証券             | 211,006          | <b>株 主 資 本</b>     | <b>1,495,485</b> |
| 敷金                 | 44,941           | 資本金                | 49,631           |
| 長期前払費用             | 18,333           | 資本剰余金              | 1,270,086        |
| 繰延税金資産             | 186,575          | 利益剰余金              | 230,861          |
| その他                | 149              | 自己株式               | △55,094          |
| <b>資 産 合 計</b>     | <b>4,688,878</b> | <b>その他の包括利益累計額</b> | <b>25,676</b>    |
|                    |                  | その他有価証券評価差額金       | 25,676           |
|                    |                  | <b>純 資 産 合 計</b>   | <b>1,521,161</b> |
|                    |                  | <b>負債及び純資産合計</b>   | <b>4,688,878</b> |

(注) 記載金額は、千円未満を切捨てて表示しております。

## 連結損益計算書

(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

(単位：千円)

| 科 目             | 金      | 額         |
|-----------------|--------|-----------|
| 売上高             |        | 7,478,296 |
| 売上原価            |        | 4,123,528 |
| 売上総利益           |        | 3,354,767 |
| 販売費及び一般管理費      |        | 2,980,291 |
| 営業利益            |        | 374,476   |
| 営業外収益           |        |           |
| 受取利息            | 4,056  |           |
| 為替差益            | 2,707  |           |
| その他の            | 1,509  | 8,272     |
| 営業外費用           |        |           |
| 支払利息            | 28,344 |           |
| 社債利息            | 7,979  |           |
| 投資事業組合運用損       | 30,773 |           |
| 支払手数料           | 3,550  |           |
| その他の            | 4,011  | 74,658    |
| 経常利益            |        | 308,091   |
| 税金等調整前当期純利益     |        | 308,091   |
| 法人税、住民税及び事業税    | 35,009 |           |
| 法人税等調整額         | 38,084 | 73,093    |
| 当期純利益           |        | 234,997   |
| 非支配株主に帰属する当期純利益 |        | 6,863     |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 |        | 228,133   |

(注) 記載金額は、千円未満を切捨てて表示しております。

## 貸借対照表

(2025年12月31日現在)

(単位：千円)

| 資 産 の 部              |                  | 負 債 の 部                  |                  |
|----------------------|------------------|--------------------------|------------------|
| 科 目                  | 金 額              | 科 目                      | 金 額              |
| <b>流 動 資 産</b>       | <b>1,294,987</b> | <b>流 動 負 債</b>           | <b>1,563,500</b> |
| 現金及び預金               | 980,228          | 買掛金                      | 2,216            |
| 売掛金及び契約資産            | 85,076           | 1年内返済予定の長期借入金            | 875,392          |
| 前払費用                 | 50,412           | 1年内償還予定の社債               | 290,000          |
| 立替金                  | 162,723          | 未払金                      | 196,308          |
| その他                  | 46,548           | 未払費用                     | 67,045           |
| 貸倒引当金                | △30,000          | 賞与引当金                    | 84,254           |
| <b>固 定 資 産</b>       | <b>3,775,673</b> | 短期借入金                    | 33,600           |
| <b>有 形 固 定 資 産</b>   | <b>15,621</b>    | その他                      | 14,685           |
| 建物                   | 9,082            | <b>固 定 負 債</b>           | <b>2,676,768</b> |
| 工具、器具及び備品            | 6,538            | 長期借入金                    | 2,263,937        |
| <b>無 形 固 定 資 産</b>   | <b>17,010</b>    | 社債                       | 390,000          |
| ソフトウェア               | 63               | 繰延税金負債                   | 22,830           |
| ソフトウェア仮勘定            | 16,947           | <b>負 債 合 計</b>           | <b>4,240,269</b> |
| <b>投 資 其 他 の 資 産</b> | <b>3,743,041</b> | <b>純 資 産 の 部</b>         |                  |
| 投資有価証券               | 207,906          | <b>株 主 資 本</b>           | <b>804,715</b>   |
| 敷金                   | 44,941           | 資本金                      | 49,631           |
| 関係会社株式               | 2,815,446        | 資本剰余金                    | 1,390,438        |
| 長期貸付金                | 2,219,000        | 資本準備金                    | 1,390,438        |
| その他                  | 18,483           | 利益剰余金                    | △580,259         |
| 貸倒引当金                | △1,562,735       | 繰越利益剰余金                  | △580,259         |
| <b>資 産 合 計</b>       | <b>5,070,661</b> | 自己株式                     | △55,094          |
|                      |                  | <b>評 価 ・ 換 算 差 額 等</b>   | <b>25,676</b>    |
|                      |                  | その他有価証券評価差額金             | 25,676           |
|                      |                  | <b>純 資 産 合 計</b>         | <b>830,391</b>   |
|                      |                  | <b>負 債 及 び 純 資 産 合 計</b> | <b>5,070,661</b> |

(注) 記載金額は、千円未満を切捨てて表示しております。

## 損 益 計 算 書

(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

(単位：千円)

| 科 目                   | 金       | 額         |
|-----------------------|---------|-----------|
| 売 上 高                 |         | 2,336,260 |
| 売 上 原 価               |         | 58,586    |
| 売 上 総 利 益             |         | 2,277,673 |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費   |         | 1,232,386 |
| 営 業 利 益               |         | 1,045,287 |
| 営 業 外 収 益             |         |           |
| 受 取 利 息               | 21,388  |           |
| 為 替 差 益               | 2,512   |           |
| そ の 他                 | 1,383   | 25,283    |
| 営 業 外 費 用             |         |           |
| 貸 倒 引 当 金 繰 入 額       | 393,109 |           |
| 支 払 利 息               | 50,192  |           |
| 社 債 利 息               | 7,979   |           |
| そ の 他                 | 34,326  | 485,606   |
| 経 常 利 益               |         | 584,965   |
| 税 引 前 当 期 純 利 益       |         | 584,965   |
| 法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税 | 2,508   |           |
| 法 人 税 等 調 整 額         | 9,252   | 11,760    |
| 当 期 純 利 益             |         | 573,204   |

(注) 記載金額は、千円未満を切捨てて表示しております。

# 連結計算書類に係る会計監査人の監査報告書 謄本

## 独立監査人の監査報告書

2026年3月3日

株式会社マイネット  
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人  
東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 三 木 康 弘  
指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 伊 東 朋

### 監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社マイネットの2025年1月1日から2025年12月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社マイネット及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

### 連結計算書類に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結計算書類に対する意見表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、連結計算書類の監査を計画し実施する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 会計監査人の監査報告書 謄本

## 独立監査人の監査報告書

2026年3月3日

株式会社マイネット  
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人  
東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 三 木 康 弘  
業 務 執 行 社 員  
指定有限責任社員 公認会計士 伊 東 朋  
業 務 執 行 社 員

### 監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社マイネットの2025年1月1日から2025年12月31日までの第20期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

### 計算書類等に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。

- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。

- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。

- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

## 監査等委員会の監査報告書 騰本

### 監 査 報 告 書

当監査等委員会は、2025年1月1日から2025年12月31日までの第20期事業年度における取締役の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査の方法及びその内容

監査等委員会は、会社法第399条の13第1項第1号ロ及びハに掲げる事項に関する取締役会決議の内容並びに当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明するとともに、下記の方法で監査を実施いたしました。

- ① 監査等委員会が定めた監査の方針、職務の分担等に従い、会社の内部統制部門と連携の上、重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務に関する事項の報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を開覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
- ② 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会の決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人EY新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人EY新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2026年3月3日

株式会社マイネット 監査等委員会

監査等委員 和田 洋 一

監査等委員 太田 雄 貴

監査等委員 栗原 正 和

(注) 監査等委員和田洋一、太田雄貴及び栗原正和は、会社法第2条第15号及び第331条第6項に規定する社外取締役であります。

以 上

# 株主総会参考書類

## 議案及び参考事項

### 第1号議案 定款一部変更の件

#### 1. 提案の理由

当社事業の現状に即し、事業内容の明確化を図るとともに、今後の事業内容の多様化に対応するため、現行定款第2条（目的）につきまして事業目的の追加及び変更を行い、号文の新設に伴い号数の繰り下げを行うものであります。

#### 2. 定款変更案の内容

定款変更案は、次のとおりであります。

(下線は変更部分を示します。)

| 現行定款                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 変更案                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(目的)</p> <p>第2条 当社は、次の事業を営むことを目的とする。</p> <p>1 <u>インターネットを利用した各種情報提供サービス業</u></p> <p>2 マルチメディア用ハードウェア及びソフトウェアの<u>開発・販売</u></p> <p>3 <u>広告代理業</u></p> <p>4 (条文省略)</p> <p>5 <u>インターネットを利用した小売業</u></p> <p>6 <u>インターネットを利用した調査サービス業</u></p> <p>7 <u>広告、宣伝に関する企画並びに製作</u></p> <p>8 (条文省略)</p> <p>9 労働者派遣事業</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p>10～12 (条文省略)</p> | <p>(目的)</p> <p>第2条 (現行どおり)</p> <p>1 <u>エンターテインメントコンテンツの企画、開発、配信、販売及び輸出</u><br/><u>入</u></p> <p>2 <u>マルチメディア用ハードウェア及びソフトウェアの企画、開発、管</u><br/><u>理、販売及び輸出入</u></p> <p>3 <u>コンピューターシステム、プログラム及びサーバーシステムの設計、</u><br/><u>構築、保守及び輸出入</u></p> <p>4 (現行どおり)</p> <p>5 <u>各種商品の企画、製造、卸売、</u><br/><u>販売及び輸出入</u></p> <p>6 <u>各種情報調査、解析、情報通信・情報処理、情報提供サービス業</u></p> <p>7 <u>広告業及び広告代理業</u></p> <p>8 (現行どおり)</p> <p>9 <u>労働者派遣事業及び有料職業紹介事業</u></p> <p>10 <u>企業の組織再編、企業提携等の</u><br/><u>仲介及びコンサルティング業務</u></p> <p>11 <u>知的財産権の取得、譲渡、使用</u><br/><u>許諾、管理及び仲介</u></p> <p>12 <u>古物営業法に基づく古物営業</u></p> <p>13 <u>デジタル資産の保有、売買及び</u><br/><u>運用</u></p> <p>14～16 (現行どおり)</p> |

## 第2号議案 資本金及び資本準備金の額の減少の件

今後の資本政策の機動性及び柔軟性を確保し、企業価値の向上を図ることを目的として本議案を提案いたします。具体的には、会社法第447条第1項及び会社法第448条第1項の規定に基づき、資本金及び資本準備金の額を減少し、これらをその他資本剰余金に振り替えるものであります。

なお、本議案は、払い戻しを行わない無償減資であり、発行済株式総数を変更することなく、資本金及び資本準備金の額を減少するものであるため、株主のみなさまが所有する株式数に影響をあたえるものではありません。また、今回の資本金及び資本準備金の額の減少によって当社の純資産額及び発行済株式総数に変更はございませんので、1株当たりの純資産額に変更を生じるものではありません。

### 1. 資本金の額の減少の内容

#### (1) 減少する資本金の額

2025年12月31日現在の資本金の額49,631,488円を39,631,488円減少して、10,000,000円とし、減少する資本金の額の全額を、その他資本剰余金に振り替えたいと存じます。

#### (2) 資本金の額の減少が効力を生ずる日

効力発生日は、2026年4月1日を予定しております。

### 2. 資本準備金の額の減少の内容

#### (1) 減少する資本準備金の額

2025年12月31日現在の資本準備金の額1,390,438,712円を1,390,438,712円減少して、0円とし、減少する資本準備金の額の全額を、その他資本剰余金に振り替えたいと存じます。

#### (2) 資本準備金の額の減少が効力を生ずる日

効力発生日は、2026年4月1日を予定しております。



| 候補者<br>番号                                                                                                                                        | 氏 名<br>(生 年 月 日)                                                   | 略 歴、 地 位、 担 当 及 び 重 要 な 兼 職 の 状 況                                                                       |                                                                                                                                                                                                    |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2                                                                                                                                                | にし むら たく や<br>西 村 拓 也<br>(1987年7月6日生)<br><br>所有する当社の株式数<br>69,800株 | 2012年9月<br>2015年4月<br><br>2020年4月<br>2022年1月<br>2022年4月<br>2023年3月<br>2024年3月<br>2024年3月<br><br>2024年3月 | 当社入社<br>当社マネージャー就任後、ゲームサービスのプロデューサーを歴任<br>当社執行役員就任<br>当社コーポレート本部長就任（現任）<br>当社常務執行役員就任<br>当社取締役就任<br>当社取締役副社長就任（現任）<br>株式会社mynet.ai代表取締役社長就任（現任）<br>株式会社ネクストマーケティング（現株式会社パレットソリューションズ）代表取締役社長就任（現任） |
| <p>[取締役候補者とした理由]</p> <p>西村拓也氏は、現在当社の取締役副社長であり、経営戦略や人事等での実績を有し、その任務を通じて当社の企業経営に関して豊富な経験と高度な知識を有しております。このため、当社は、同氏が取締役として適任であると判断し、候補者といたしました。</p> |                                                                    |                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                    |

- (注) 1. 各候補者の所有する当社の株式数は2025年12月末日現在の表示であります。
2. 各候補者と当社との間には特別の利害関係はありません。
3. 当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しており、当該保険契約の内容の概要は、事業報告の「4. 会社役員に関する事項 (3) 役員等賠償責任保険契約の内容の概要」に記載のとおりであります。各候補者の選任が承認されますと、当該保険契約の被保険者となります。また、当該保険契約は次回更新時においても同内容での更新を予定しております。

#### 第4号議案 監査等委員である取締役2名選任の件

監査等委員である取締役太田雄貴氏及び栗原正和氏は、本総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、監査等委員である取締役2名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案につきましては、あらかじめ監査等委員会の同意を得ております。

監査等委員である取締役候補者は、次のとおりであります。

| 候補者<br>番号                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 氏 名<br>(生 年 月 日)                                               | 略 歴、 地 位、 担 当 及 び 重 要 な 兼 職 の 状 況 |                                  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|
| 1                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | おお た ゆう き<br>太 田 雄 貴<br>(1985年11月25日生)<br><br>所有する当社の株式数<br>一株 | 2008年8月                           | 北京オリンピック、男子フェンシングフルーレ個人で銀メダル獲得   |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                | 2012年8月                           | ロンドンオリンピック、男子フェンシングフルーレ団体で銀メダル獲得 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                | 2015年7月                           | フェンシング世界選手権、男子フルーレ個人で金メダル獲得      |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                | 2016年11月                          | WIN3株式会社代表取締役就任（現任）              |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                | 2016年11月                          | 国際フェンシング連盟理事就任（現任）               |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                | 2017年8月                           | 日本フェンシング協会会長就任                   |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                | 2018年8月                           | 日本eスポーツ連合特別顧問就任（現任）              |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                | 2018年12月                          | 国際フェンシング連盟副会長就任                  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                | 2021年3月                           | 当社社外取締役就任                        |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                | 2021年8月                           | 国際オリンピック委員会選手委員（現任）              |
| 2024年1月                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 株式会社イトクロ取締役就任（現任）                                              |                                   |                                  |
| 2024年3月                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 当社社外取締役監査等委員就任（現任）                                             |                                   |                                  |
| [監査等委員である社外取締役候補者とした理由及び期待される役割の概要]<br>太田雄貴氏は、アスリートとしての活躍をはじめ、組織運営及び社会活動から得られた豊富な経験と幅広い見識を有しており、当社の経営全般に関する有益な助言及び提言をいただけるものと考えております。このため、当社は、同氏が社外取締役として適任であると判断し、その深い知見に基づく助言、牽制を期待して監査等委員である社外取締役候補者とするものです。また、同氏が選任された場合は、当社スポーツ関連事業への提言や事業方針に関わる助言など、専門的立場で関与いただく予定です。なお、同氏は、現在当社の社外取締役であり、社外取締役としての在任期間は本総会終結の時をもって5年となります。 |                                                                |                                   |                                  |

| 候補者<br>番号 | 氏 名<br>(生 年 月 日)                                                                                                                                                                                                                                                                                | 略 歴、 地 位、 担 当 及 び 重 要 な 兼 職 の 状 況                               |                                                                                                            |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|           | 栗原正和<br><small>くり はら まさ かず</small><br>(1960年1月12日生)                                                                                                                                                                                                                                             | 1987年10月<br>2007年5月<br>2008年6月<br>2010年4月<br>2020年6月<br>2024年3月 | 株式会社電通入社<br>フィールズ株式会社（現円谷フィールズホールディングス株式会社）執行役員就任<br>同社取締役就任<br>同社常務取締役就任<br>同社監査役就任<br>当社社外取締役監査等委員就任（現任） |
| 2         | <p>[監査等委員である社外取締役候補者とした理由及び期待される役割の概要]</p> <p>栗原正和氏は、経営に関する豊富な経験やエンターテイメント業界における卓越した見識を有しております。このため、当社は、同氏が社外取締役として適任であると判断し、その深い知見に基づく助言、牽制を期待して監査等委員である社外取締役候補者とするものです。また、同氏が選任された場合は、当社コーポレート部門への提言や経営方針に関わる助言など、専門的立場で関与いただく予定です。なお、同氏は、現在当社の社外取締役であり、社外取締役としての在任期間は本総会終結の時をもって2年となります。</p> |                                                                 |                                                                                                            |

- (注) 1. 各候補者の所有する当社の株式数は2025年12月末日現在の表示であります。
2. 各候補者と当社との間には特別の利害関係はありません。
3. 太田雄貴氏及び栗原正和氏は、社外取締役候補者であります。
4. 当社と太田雄貴氏及び栗原正和氏とは、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。本総会において両氏の再任が承認された場合は、同様の内容の契約を継続する予定であります。なお、当該契約に基づく責任の限度額は、法令が規定する額となります。
5. 当社は、太田雄貴氏及び栗原正和氏を東京証券取引所に独立役員として届け出ており、両氏の再任が承認された場合は、改めて両氏を独立役員とする予定であります。
6. 当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しており、当該保険契約の内容の概要は、事業報告の「4. 会社役員に関する事項 (3) 役員等賠償責任保険契約の内容の概要」に記載のとおりであります。各候補者の選任が承認されますと、当該保険契約の被保険者となります。また、当該保険契約は次回更新時においても同内容での更新を予定しております。

## 第5号議案 会計監査人選任の件

当社の会計監査人であるEY新日本有限責任監査法人は、本総会終結の時をもって任期満了により退任されますので、新たに監査法人の選任をお願いするものであります。

なお、本議案に関しましては、監査等委員会の決定に基づいております。

また、監査等委員会が監査法人A&Aパートナーズを会計監査人の候補者とした理由は、会計監査人に必要とされる独立性、専門性、適切性及び品質管理体制を総合的に検討した結果、会計監査が適正に行われる監査体制を備えていることに加えて、新たな視点での監査が期待できることにより、適任であると判断したためであります。

会計監査人候補者は、次のとおりであります。

(2026年1月1日現在)

|       |                          |                            |      |
|-------|--------------------------|----------------------------|------|
| 名 称   | 監査法人A&Aパートナーズ            |                            |      |
| 事 務 所 | 主たる事務所 東京都中央区日本橋三丁目11番2号 |                            |      |
| 沿 革   | 1990年7月                  | 監査法人エイ・アイ・シー設立             |      |
|       | 2007年5月                  | 監査法人A&Aパートナーズに名称変更         |      |
|       | 2007年7月                  | みずず監査法人（旧中央青山監査法人）から31名が合流 |      |
| 概 要   | 資本金                      | 68百万円                      |      |
|       | 構成人員                     | 社員（公認会計士）                  | 20名  |
|       |                          | （特定社員）                     | 1名   |
|       |                          | 職員（公認会計士）                  | 41名  |
|       |                          | （USCPA）                    | 3名   |
|       |                          | （CISA）                     | 3名   |
|       |                          | （その他の職員）                   | 40名  |
|       |                          | 合 計                        | 108名 |
|       | 関与会社                     | 132社                       |      |

以上

# 株主総会会場ご案内図

場所：東京都新宿区霞ヶ丘町4-1

日本青年館ホテル 8階

TEL 03-6452-9020

交通：東京メトロ銀座線「外苑前駅」より徒歩約5分



## ※ご注意

駐車場の準備はいたしておりませんので、お車でのお越しはご遠慮くださいますようお願い申し上げます。

株主総会ご出席株主様へのお土産は取り止めさせていただいております。何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。